



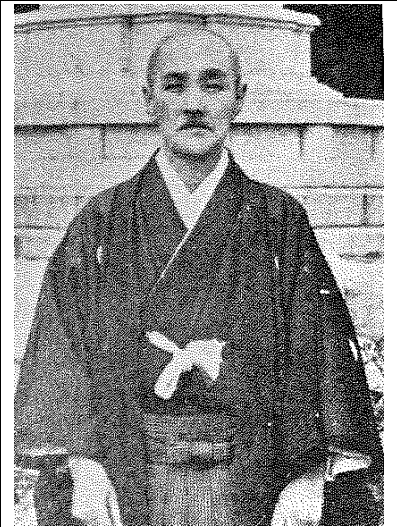
名古屋の偉人伝

No.36

伊勢門水(いせ もんすい)の巻

ここがスゴイ！

旗幟商を営む傍ら諸芸を嗜み、特に狂言師として高い名声を得る。絵画や狂歌、書でも活躍。風変わりな奇行でも知られ、同好の士が集まった「御洒落会」の中心人物でもあった。



出典：『明治の名古屋人』

こんな人生を送ってきました

安政 6(1859)年、名古屋城下末広町に生まれる。伊勢門水は筆名で、本名は水野^{うえもん}宇右衛門。幼年時代から狂言を学び、名古屋の狂言師として中心的な役割を果たす存在となる。また独学でおさめた狂言画が高く評価される。

明治 20(1887)年、大口六兵衛とともに「愛知洒落部」(後に「御洒落会」)を結成。燃えた提灯の供養と称した臨時提魂祭、80 畳の大広間で人間をコマにして行った人間万事飛廻り双六など、真面目に馬鹿げたことをするのを心から楽しんだ。

祭好きで、明治 43(1910)年に自家製の限定本として自費出版(昭和 55 年に復刻版を出版)した『名古屋祭』は、名古屋とその近郊の祭について克明に調査した名著として名高い。

昭和 6(1931)年秋、ハ事山中で「リーモー」という「御洒落会が特殊の踊」を舞う中激しい雨に遭いずぶ濡れとなり、これが原因で病床に伏す。昭和 7(1932)年 1 月 15 日、末広町神楽団の好意による祭囃子を聞きつつ、生涯を閉じた。

もっとくわしく知りたいあなたに

『伊勢門水翁遺稿 御洒落伝』伊勢門水／著 御洒落伝刊行会 1960
 『名古屋祭』伊勢門水／編 村田書店 1980
 『名古屋郷土叢書 第2巻 末広町話・橘町』国書刊行会 1986
 『明治の名古屋人』名古屋市教育委員会／編 名古屋市教育委員会 1969
 『多芸多才にして奇才 伊勢門水』みよし市立歴史民俗資料館 2017
 「NAGOYA発」No. 4(1988)、No. 18(1991) 名古屋市市民経済局